

1枚の金貨が あなたの命を守る!

なぜアリは金貨を貯めていたのか?

スペースインターナショナル株式会社
代表取締役 六川牧志



その年の冬は、大寒波が襲つてきて例年にはない寒さとなりました。あまりの寒さに、キリギリスは暖炉で薪をどんどん燃やしました。すると、薪はあつという間にすべてなくなってしまいました。やがて暖炉の最後の火も消え、家の中は外のよだな寒さになりました。キリギリスは、薪を買いたくて、家の洋服や家財道具や車などを売りましたが、手にしたお金はほんのわずか。とても冬を越すための十分な薪を買うことはできませんでした。寒い部屋の中で、温かい食事にもありつけず、着替える服もなく、毎日ブルブル震えていました。

ついに、キリギリスはたまらなくなつて、東の町に住むアリのところにお金を借りに行きました。アリの家に入つてキリギリスはビックリしました。
なんと、アリの家の暖炉は赤々と燃えていて、家中はボカボカと暖かく、テーブルの上にはおいしそうな温かい食事が並んでいたのです。キリギリスはアリの暮らしぶりをたいへんうらやましく思つて聞きました。



「どうしてアリさんはこんな暮らしができるんだい？」
するとアリはこう答えました。

「ぼくは、毎月できるだけのお金を金貨に替えて貯蓄しておいたんだ。」
と言って、壺を持ってきて中身を見せてくれました。

壺の中には、小さな金貨がギッシリ詰まっていました。キリギ里斯はアリに聞きました。
「アリさん、すまないけどその金貨を二～三枚貸してくれないかい？」

さて、ここでみなさんに質問です。

問一・あなた自身を虫にたとえると、アリとキリギ里斯のどちらですか？

問二・もしあなただがアリだとしたらキリギ里斯に金貨を貸してあげますか？

みなさんの答えはいかがでしようか？

むかしむかしで始まるアリとキリギ里斯のお話ですが、実はこれは、昔話ではなく、現代の話であり、私たち自身の話なのです。大寒波とは、現代の不況の波にほかなりません。キリギ里斯は快適な生活に慣れ、欲しいものは何でも手に入る事が当然だと思い、将来への危機感が薄い現代の日本人の姿を象徴しています。一方、アリは本来の性分から将来の危機を見越して、毎月コツコツと金貨で貯金をしていました。そのおかげで、大寒波（大

不況) の際にも、快適な衣食住を手にすることができたのです。

なぜアリが現金ではなく、金貨で貯金をしていましたかというと、それは、アリが金の価値を知っていたからです。人類が金と出会ってから数千年以上が経ちますが、金の価値が暴落したことは一度もありません。それどころか、戦争や紛争や世界恐慌、自然災害などの惨事が起るたびに、金の価値は高くなります。人類の歴史の中で、金を持っていたために救われた命も数知れません。未曾有の不況のとき、お金は一瞬にして紙くずに変わることがあります。そんなときに最も力を発揮するのが金なのです。

金貨一枚は数万円で購入出来ますが、いざとなつたとき、一枚の金貨がどれだけあなたの身を守ってくれるかを考えてみたことはありますか？

この小冊子で皆さんにお伝えしたいのは、金の価値を知り、絵空ごとではない未曾有の事態に備えて、今から金の貯蓄を始めて頂きたいということです。



不況の時には金を買おう！^{きん}

私が、金のビジネスに興味を持つようになつたきっかけとなる幼少の頃のエピソードをお話しよう。実は、私の父からの影響があつたのです。

私の父は銀貨や金貨の収集をすることが好きで、私が小さい頃よく、天皇陛下の御成婚記念金貨や在位記念金貨などさまざまな金貨を集めています。

「牧志、いいものを見せてやるぞ！」

そう言って、父が私の手に乗せてくれた十万円金貨はずつしりと重く、今でも印象深い思い出として記憶に残っています。

「この金貨は十万円の価値があるんだ。牧志が大人になつた時にはもつと高くなつているかも知れないぞ。」

父のその言葉が私の心に深く残りました。その頃からコインに対する興味がどんどん膨れ上がつていったのです。次第にコイン集めに夢中になり、当時、「ギザ十」と呼ばれていたギザギザしている十円玉や、大きな五十円玉を集めてはコインブックに収集していました。単に収集するのが楽しかったのと、いつの日かコインの価値が上がるのではないかというワクワクする気持ちだったことを今でも覚えています。

もう一つ、金の購入を皆さまに勧めるようになった理由をお話します。

社会人になって、私の田舎の長野県佐久市に帰省する度に、手土産として実家の親にお菓子や果物や洋服などを買っていくと、

「こんな無駄なもの買つてくるな！無駄遣いはするな！」

となぜか父に怒られました。

私としては一生懸命に考えて買つていたのに、なんで喜んでもらえないのかと不思議でした。

しかし、あるとき私は幼少の頃、嬉しそうに私に金貨を見せてくれた父のことを思い出し、帰省の手土産に金貨を買って帰ることにしました。三万円位の四分の一オンスのメープルの金貨でした。その金貨を見て、父親は初めて嬉しそうな表情を見せてくれました。おそらく、田舎の農家に生まれ育った父にとって、私の消費行動はまさにキリギリスのように映つていたのでしょう。

【金に関する豆知識①】大正生まれの女性たちは、マリッジリングとして「金のカマボコ」と呼ばれる太いリングを好んだ。どことこの奥さんのより太いか細いかと競争心を燃やし、金歯の地金を足すなどして太く作り直したりしていた人も珍しくなかった。しかし、次第に、「金のカマボコ」の人気はなくなっていました。

もしも一万円札が紙くずになつたら

ある朝、あなたが目覚めたとき、あなたが持つてゐる一万円札が真つ白な紙に変わつてしまふあなたはどうしますか？

「そんなバカなことは絶対にない！」「そんなことは日本で起るわけない！」

と断言する人もいるかもしません。

「なんだかんだいっても、日本の将来はなんとかなるだろう。」

と考へてゐる人は少くないでしよう。しかし、脅すつもりはまったくないのでですが、残念なことに、近い将来一万円札が一瞬にして紙きれ同然の価値になつてしまつたことが高い確率でありえるのです。その理由を説明しましょう。

皆さんは、日本国が抱える負債額を御存知ですか？

なんと、日本国の負債額は【一〇七〇兆円】を超え、一人当たりは【八四五万円】にもなるのです。

日本は、先進国でありながら世界でワースト二位という、ありえないほど借金大国なのです。

借金はどうしてできるかというと、日本国は国債という借用書を発行しつづけ、その利子を払うために、またさらに国債を発行しているからです。これはサラ金に例えると、借金を返すために借金をするという恐ろしい事態で、雪だるま式に負債は膨れあがってきています。そして、この負のスパイクを止める手段を誰も見つけられずにいるのです。

このまま借金が進むと、近い将来にハイパーインフレがやってきます。ハイパーインフレになると物の値段が十倍、百倍と高騰します。つまり、一万円札の価値が千円、百円とどんどん下がってしまうのです。

日本人は世界でも勤勉な民族であり、国に対する信用は他国と比べても高いという国民性があります。しかし、国の通貨に対する不信感が芽生えた瞬間、一斉に日本円から目を背けるようになるでしょう。つまり、通貨価値が崩壊するのも秒読み段階に入っていると言つても過言ではないのです。

【金に関する豆知識②】 現在は、日本でマリッジリングを買う時にはほとんどの人がプラチナを選ぶ。しかし、ヨーロッパでマリッジリングなのにプラチナをつけていると、銀と思われて恥をかくこともある。また、欧米人が金を好むのは、これを身につけていればどこでも生きていける、という考え方がある。ジプシーなどは、すべての金を身につけて移動する。



贈り物の99%が消費です！

私たちは、誕生日やクリスマス、バレンタインデー、ホワイトデー、お中元やお歳暮など、家族や恋人、日ごろお世話になつてている人たちに対して、一年中たくさんの中を贈り合います。

実は、これらの物の99%が消費されるものです。

もちろん、相手がほんとうに必要としている生活必需品のようなものであれば、贈つてあげる価値はあるでしょう。また、相手への感謝や謝罪や愛情の印として物を贈り合つたりすることはあります。

しかし、胸に手を当ててちょっと考えてみてください。誕生日やクリスマス、お中元やお歳暮で頂いたもののどれくらいを実際に使つていてるでしょうか？過去一年間の間に何かしらの贈り物をもらつてている人は多いと思いますが、そのプレゼントを心からありがたいと感じ、今も大事にしている人はどれだけいるでしょうか？ほとんどの人が、答えに窮すると思います。つまり、あらゆる贈り物のほとんどが、その瞬間だけの気持ちや、楽しみでしかないのです。

ところが、金だけは違います。金をプレゼントとして贈った場合、もらつた人は捨てる

ということではなく、どこかに大切に保管しておくことでしょう。つまり、消費ではなく貯蓄になるのです。金だけが、唯一、消費されない永遠の価値を持っていると言つても良いでしよう。

「金ではなく、レアメタルや宝石でも良いのでは?」

という声もあるでしょう。レアメタルや宝石もそれ自体には確かに価値はありますが、「流通ができない」という欠点があります。また、金は火事になつても燃えてなくなることがありませんが、宝石の王様であるダイヤモンドは石炭と同じなので、燃えて消えてなくなってしまいます。

さらに、買う時には十倍の高い値がつき、売るときの価値は十分の一になつてしまふのが一般的です。つまり、金以外に、流通ができる、火に強く、買う時と売る時の価値が大きく変わらないものはないのです。

男性は女性に数十万円もする高価なブランドバックを贈ることがあります、ブランドのバックを買うお金で金を購入して贈つてみてはいかがでしょうか?

【金に関する豆知識③】日本でジュエリーによく使われている18金は、22金や24金とは色や輝きが異なり落ち着いた印象がある。東洋人の黄色い肌に金色はあまり似合わない。逆に、ヨーロッパやインドでは、断然純金に近い22金や24金に人気がある。白い肌、明るい色の髪には、豪華な金が似合う。また浅黒い肌にも金の輝きはよく映える。

経営者は金貨でボーナスを払おう！

私の知り合いのIT系の会社の社長さんは、ボーナスの一部を金貨で支払っています。たいへん素晴らしいアイデアであり、この社長さんはほんとうに社員のことを考えていると感心しました。

皆さんの中には、「ボーナスが金で支払われたら困る！」と思われる人もいるかもしれません。しかし、この会社ではボーナスの一部が金になつたからと言って不平を言う社員は一人もいないそうです。どうしてもボーナスの全額を現金で必要な社員がいる場合は、もちろん現金に換金することも可能だからでしょう。しかし、ボーナスの全額を現金払いを要求してきた社員はこれまで一人もおらず、むしろこの「一部金貨でボーナス制度」は、社員から大変好評を得ているそうです。

その会社では一回のボーナスでは金貨十枚位（約十数万円相当額）が支払われていて、社員の中にはその金貨を、ご両親やご家族に配っている人もいるようです。そして何より、ボーナスの時期を前よりももっと楽しむことができるようになったという声が聞かれるそうです。

家庭で金の保有をすることになれば、金の価値についての認識をみんなで高めていく機

会ができます。そして、ボーナスの度に社員の金の保有量は増え、いざといいう時に社員の身を守る確かな保障をつくっていくことになります。

【金に関する豆知識④】バブル期にも純金のアクセサリーが流行った。女性だけでなく、男性も金の喜平や、純金のコインペンダントをこれ見よがしに身につけている人がたくさんいた。当時は日焼けサロンもブームであり、よく焼けた黒い肌には確かに純金は良く似合った。



子供の誕生日に金貨をあげよう！

ボーナスを金貨で支払う社長さんから、もう一つ素敵なお話を聞かせていただきました。その会社のある社員が、奥さんにボーナスの金貨を何枚かあげたところ、その奥さんはその金貨を数年間、大切に保管しておいたそうです。

そして、子供が十歳になつた誕生日から、毎年一枚の金貨を誕生日のプレゼントとしてあげようと決めました。また、金貨と一緒に、十枚の金貨が入る綺麗なケースもあわせてプレゼントしました。そのお母さんは子供に、と言って、金の価値について子供が分かるように話してあげました。すると、子供は金に大変興味を持ったようで、

「ケースがいっぱいになるまで貯まつたらいいな！ぼく貯める！」

と言つて、母親が期待した以上に喜んだそうです。

また、金貨をもらった子供のお金に対する認識に、大きな影響を与えたとも言つています。今までは、お小遣いをあげるとすぐに使つていたのですが、金貨を貰うようになると、その金貨を大切に持つているだけでなく、毎月貰うお小遣いも貯金するようになつたのだと言います。

金貨という具体的な形のある貯蓄が、子供の金銭感覚を変えたのでしょうか。

実際に本物の金貨を子供に触らせるには、情操教育にもなります。金貨は子供の独立心や経済感覚を育て、お金を大切にする心をはぐくむことができます。

日本人は世界の中でも、お金を稼ぐことに対する抵抗感を持つていて、お金を使うことにも過剰な罪悪感を抱くことがあります。これは、江戸時代から定着した儒教の流れで、質素儉約の思想が日本人の中に根強く流れているからです。そのためか、グローバルなビジネスや金融の世界で大きく活躍できる人材が少ないというのが現状です。

しかし、子供に金貨をあげることで、早くから世界的な視点でお金の価値について柔軟な考えが出来るようになるのです。家庭で始められる、金銭感覚を養う素晴らしい教育だと確信しています。

是非、大切なお子様のために、お誕生日のプレゼントやお年玉に、金貨をプレゼントしてみてはいかがでしょうか。

【金に関する豆知識⑤】バブル期に流行った喜平やコインペンダントが、最近はどんどん買い取りに持ち込まれている。流行遅れであることと、不景気なのでとにかく現金化したい人が増えている。中には、チラシに「高価買取り」などと印刷してバラまき、主婦などが金相場に無知なのをいいことに、安く買いたたく業者もいる。



一枚の金貨があなたの命を守る！

日本人より、中国やインド人などの外国の人々の方が金を好む傾向があります。また、一般的に日本人以上に金に対して価値を置いています。

それは大陸に住む多くの民族の歴史は侵略と略奪の繰り返しであり、自分と家族の身の安全を守るために、金で命を守ってきたという事実があるからです。遠い昔から古今東西、金の価値はそう大きくは変わることはありませんでした。人々はある土地からまた新しい土地へ移動するとき、身につけてきた金によつて生き延びてきました。つい最近の近代まで金を持っていたために、命が助かつたという話は無数にありました。

現在でも中国やインド人の多くは、たくさんの金の宝飾品を持つている人が少なくありません。金でできたイヤリングや指輪、腕輪、首輪などを身につけている人もいます。

これは、着飾るという目的の他にも、争いが始まつた時などに、着の身着のままで逃げても、体に財産を身につけていればとにかく命だけは守れると考えているからでしょう。ですから彼らの金は、日本のものよりも純度が高くなつてゐるのが一般的です。当然のこ

とですが、純度が高ければ高いほど高く売れるからです。

現代版のアリとキリギリスの話では、キリギリスは、稼いだお金を全て使つてしまい、金を貯蓄しておかなかつたばかりに、冬には凍えるような生活を余儀なくされます。一方、アリは貯金していた金貨で冬を快適に過ごすことができました。

堅実なアリのことですから、遊んで過ごしていた自業自得のキリギリスに、一生懸命に貯めた金貨を、簡単には貸してくれることはないでしよう。まして、春がいつ来るのか分からぬような冬を過ごしていれば、なおさら人に金貨を差し出してくれるようなことは考えにくいです。

この話は寓話ではなく明日にでもあなたの身にも起こりえることです。金貨を少しずつ貯金することは誰にでもできることです。あなたの今の収入が多いか少ないかで未来のあなたの置かれる状況が決まるのではなく、あなたが来るべき冬のために、今、どのような準備をしているかで大きく変わってくるのです。

【金に関する豆知識⑥】 共産国家である中国では、少し前まで金の個人所有が認められなかった。しかし、近年に解禁となり現在は多くの中国人が競って金を買っている。いざとなれば、海外逃亡の際に持ち出せる。毒性がないので、飲み込んで隠すことも出来る。中国人は古来より金と翡翠を珍重してきたが、翡翠は偽物を作る技術が進みすぎたので信用度がない。



こんな面白い金貨がある！



メープル金貨



UBS ゴールドバー（表）



アメリカ金貨



UBS ゴールドバー（裏）



アメリカンイーグルのプラチナ

スペースインターナショナル株式会社で扱っている人気金貨の一覧です。
人気金貨はすぐに完売してしまいますので、お早めにご連絡ください。



パンダ金貨



ウィーン金貨（表）



カンガルー金貨



ウィーン金貨（裏）

【金に関する豆知識⑧】日本独特の金の使い方で外国人に非常に珍しがられたのが、「つくろい」という技術である。割れた茶碗などを、金漆でつくろうことだ。茶碗は人の口に触れるものなので、有害な金属は使えない。そのため、茶碗の修理は「金づくろい」と決まっていた。つくろった傷を芸術として楽しむ、味わうという文化は、欧米人にはかなり新鮮に映ったようだ。



金を贈ることは愛を贈ること

不況が深刻化すればするほど、私たちの生活環境に悪い影響がでてきます。また、都市部はますます人口が集中し、犯罪も増加してきています。不況が続き、困窮する人が増えると、これまでの日本の治安を維持することも難しくなってきます。世界情勢も日々追うことにはやしくなっています。

これまでの人類の争いは、主に資源や食糧の奪い合いから起っています。もし、争いが始まれば、自分の手で食料を確保できない者は真っ先に命の危険を脅かされることになります。世界的な規模で人口爆発が起つた場合、世界の人口に対する食糧は明らかに足りず、世界規模の食糧危機が起ることは間違いないません。特に、食料自給率が四〇%以下の日本のような国は大きなダメージを受けることになるのです。

そのため、資産防衛、安全保障、食糧の確保の最も良い方法として、私は日本人こそ、いまからでも金を購入し貯蓄しておく必要があると考えているのです。

「でも、金を買えるのはお金持ちの人でしょう?」

としばしば金の購入を勧めた人から言われますが、それはまつたくの逆です。

現段階で、貯蓄や収入が少ない人ほど、金での貯蓄をすべきなのです。明日を生き残るために、金を買って毎日に備える必要があるのです。

愛する家族や恋人、社員へ金を贈つてあげてください。金を贈ることは、贈った相手の命を救うこと、つまり、愛を贈ることに他なりません。

先行き不安な状況の中に私たちはいますが、私は日本に金を普及させることによって起りうる危機を乗り切ることができると考えています。

そして、危機の対処に役立つばかりでなく、金の普及が日本の平和を実現すると信じています。さらに、世界の人々が、金を蓄財することによって、世界平和を実現することを強く望み、心から願っています。



《著者紹介》

六川 牧志（ロクガワ マキシ）

スペースインターナショナル株

代表取締役社長

1975年 長野県生まれ。野沢北高校卒業。

1997年 Auckland Institute of Technology卒業。

2001年10月 東京都江東区有明に有限会社を設立。

2003年 ボールペンにフラッシュメモリを組み込んだアイディア商品 PenDrive（ペンドライブ）を発売。「新聞や雑誌など総数50媒体以上から取材を受けるほど」大きな話題となる。翌年2004年5月自己資本での増資を行い、スペースインターナショナル株式会社に組織変更。

2006年12月 事業拡大のために東京都中央区八丁堀へ事務所を移転。

2010年 純金コイン、純金アクセサリー、純金置物の通信販売開始。

2011年 金貨・銀貨の自動販売機を企画開発、貴金属販売のサービスを開始。

2014年 貴金属販売店「金銀の貯金箱」をオープン。

2017年 「金銀の貯金箱」を茅場町タワーへ移転。

金を贈ることは
きん

愛を贈ること



スペースインターナショナル株式会社は、日本国内における純金の普及に貢献します。一人でも多くの皆さまの幸せと発展のために、この小冊子がお役に立つことを心から願います。

SPACE GOLD

HP:<http://www.spacein.jp>
Mail: info@spacein.jp

発行・発売 スペースインターナショナル株式会社
制作協力 株式会社愛才



金や銀を持つことは、
貴方や家族にとって大切な貯金となります！